

Art & Society Research Center Talk Event

オルタナティブな アートスペースとは？

Case Study: 米国と日本

2016年9月23日[金] 19:00-20:30

会場 | Arts Chiyoda 3331 地下1階 B105 マルチスペース

定員 | 30名(先着順)・参加費無料(団体への寄付は任意)

美術館やギャラリーといった“ホワイトキューブ”を脱し、新しい表現を育む機能を果たしているといえる「オルタナティブ・スペース」。運営主体や空間規模が多様であり、既存の倉庫やビル、家屋、学校などをリノベーションし、利活用しているケースが数多くみられます。それゆえ、ジャンルを超えた表現活動にも、自由で柔軟な対応が可能となり、実験的で先鋭的な表現のインキュベーション機能を担っているといえるでしょう。

今回のトークでは、フィールドワークに基づき米国の事例を研究している登久希子氏と、日本の事例を調査し、自身もオルタナティブ・スペースを運営している青木彬氏をお招きし、現代におけるオルタナティブ・スペースの可能性をお話して頂きます。

Kukiko Nobori

登久希子 [国立民族学博物館・外来研究員]



専門は文化人類学。大阪、ワルシャワで展覧会やイベント等の運営および調査に携わるほか、ニューヨークのオルタナティブ・スペースにおけるフィールド・ワークをもとに「エフェメラル」な芸術、アーティストのアイデンティティの変遷について研究を行ってきた。現在の関心は現代美術の取り組みと人類学の接点について。

Akira Aoki

青木彬 [インディペンデント・キュレーター]



1989年生まれ。東京都出身。首都大学東京インダストリアルアートコース卒業。在学中に「ひののんフィクション」などのアートプロジェクトの企画・運営に携わる。メインストリーム/オルタナティブを問わず、横断的な表現活動の支援を目指す。現在はTAV GALLERYのキュレーターとしても活動中。

お申込み&お問合せ

info@art-society.com

件名を「9/23 トークイベント参加申し込み」とし、お名前、ご所属、同伴者の人数をご記載のうえお申し込みください。

※ いただいた個人情報は適切に責任を持って管理いたします。
※ 会場へのアクセスはウェブサイトをご覧ください。 <http://www.3331.jp/access>

特定非営利活動法人アート&ソサエティ研究センター
102-0021 東京都千代田区外神田 6-11-14 アーツ千代田 3331 311E

 ART & SOCIETY
RESEARCH CENTER